

# 医療者はコミュニケーションを

## 2 NPO法人が取り組み発表

第二十六回日本医学会総会が今月四日から六日まで、福岡市で開かれた。先端医療以外にも、医師と患者のよりよい関係や健康づくりなど幅広いテーマでシンポジウムや講演、展示があった。百を超すプログラムの中から、医師と患者のコミュニケーションをテーマにしたNPOの活動や「理想の医師像」を探った医学生らの発表など、暮らしに身近なものを報告する。



者とうまくコミュニケーションがとれないばかりに、ぎくしゃくした関係になることがあるはず」と黒岩かをる代表。

医療を提供する側と受け 派遣などの活動を展開。各 側のよりよい関係を築こ 代表は「医療者はもつとこ うと、二つのNPO法人が ミュニケーションを大切 市民レベルでの取り組みや に」と強調した。 意見を発表した。それぞれ 九州・山口を中心に活動 に電話相談や「模擬患者」 している「医療コミュニケ

ーション・薫陶塾は、「模 擬患者」を使った医療面接 教育のデモンストレーショ ンを披露した。「病院で自 分の思いが伝わらない経験 は多いと思う。医師側も患

**COML** 電話相談件数は右肩上がり

**薫陶塾** 医学生への教育に「模擬患者」

きる。リアルなやり取りと率直な感想をフィードバックすることで、医学生らに「失敗が許される」トレーニングの場を提供する。

デモンストレーションは「ベッドから転落し骨折したお年寄りの家族への電話連絡」「救急外来に歩いて訪れた人への入院勧告」などを想定。それぞれに、医師役と患者・家族役でアドリアのやり取りをした。体験した若い医師や医学生らは「ゆっぺり話そうと心掛けたが早口になった」「病状の説明はできたけれど入院の説得までできなかった」などと反省。話を聞いてくれる雰囲気伝わったので、安心できた」という患者役の言葉に笑顔を見せた。

「より質の高い医療と医師を育てる責任を、市民側も担う時代」と黒岩さん。大学や看護学校などから年間五十件以上の「模擬患者」の依頼を受ける。「医療は知識



NPO法人「薫陶塾」が開いた「模擬診療室」。患者役のメンバーを相手に、医学生らが問診を「体験」する

(裏面に続く)



# 理想の医師像 医学生が調査

「理想の医師像は」―福岡の医学生グループが、そんな素朴で大きなテーマについて医師と患者にアンケートを実施した。九州大の会場で調査結果を発表すると同時に、現役の医師や市民らと「在るべき姿」を話し合った。

## 治療の説明と決定 医師と患者意識にズレ

今回、初めてプログラムの三十人が取り組んだ。アに加えられた「学生企画」アンケートは、福岡市内の医師と患者とのコミュニケーションの一つで、九州大と福岡大 療機関からコンピューター

(表面から続く)

や技術だけでなく人と接する仕事である以上、コミュニケーション力が求められる。高い志で学んだことを生かすためにも、患者とのコミュニケーションを訓練することは大切と話す。

大阪を拠点にする「さざえあい医療人権センター OML(コムル)」代表の辻本好子さんは、十二年間取り組んでいる医療の電話相談を報告し、患者の立場からコミュニケーションの大切さを訴えた。相談件数は右肩上がりで増え昨年は約三千五百件、「医療不信」「医師の説明不足」「医療費」の内容が多いという。

辻本さんは「患者の権利意識が高まり、コスト意識を押し始めた」と分析する。相談を通して、「医師は説明しているはずなのに、

と答えた。これに対して「患者が不満に感じていると思う」医師は2・7%だった。治療方針については、患者の69・8%が「医師に委ねたい」としているのに対し、医師は46・2%と半数以下。逆に「患者が決めるべき」が45・6%に上った。

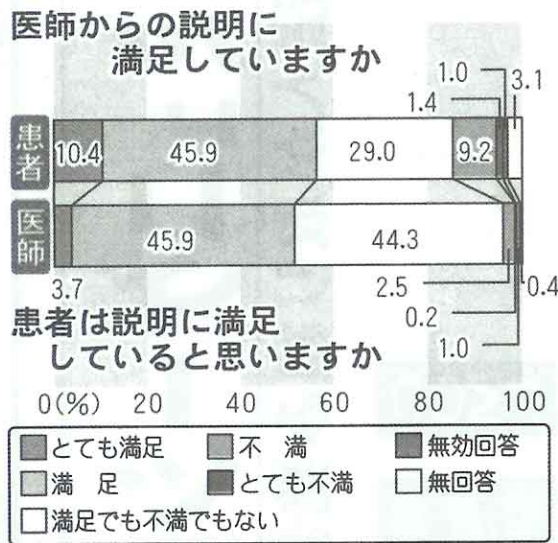
「理想の医師の条件」の記述回答の結果からも、医師と患者の意識の違いがくつきりと出た。患者側は「技術・知識がある」「話を聞いてくれる」「説明してくれる」「人間性」「優しい」が上位を占めた。一方の医師側は「情熱・信念がある」「技術・信念がある」「人間性」「優しさ」をあげた。この違いについて医学生らは「患者側は、病気のこ

と答えた。これに対して「患者が不満に感じていると思う」医師は2・7%だった。治療方針については、患者の69・8%が「医師に委ねたい」としているのに対し、医師は46・2%と半数以下。逆に「患者が決めるべき」が45・6%に上った。

「理想の医師の条件」の記述回答の結果からも、医師と患者の意識の違いがくつきりと出た。患者側は「技術・知識がある」「話を聞いてくれる」「説明してくれる」「人間性」「優しい」が上位を占めた。一方の医師側は「情熱・信念がある」「技術・信念がある」「人間性」「優しさ」をあげた。この違いについて医学生らは「患者側は、病気のこ

と答えた。これに対して「患者が不満に感じていると思う」医師は2・7%だった。治療方針については、患者の69・8%が「医師に委ねたい」としているのに対し、医師は46・2%と半数以下。逆に「患者が決めるべき」が45・6%に上った。

## 医師の説明 患者の10.6%不満



「医療は医師だけでなく、患者さんなど多くの人に支えられて成立している」と実感しました」と代表の茂地智子さん(九州大医学部

「医療は医師だけでなく、患者さんなど多くの人に支えられて成立している」と実感しました」と代表の茂地智子さん(九州大医学部

「医療は医師だけでなく、患者さんなど多くの人に支えられて成立している」と実感しました」と代表の茂地智子さん(九州大医学部

「医療は医師だけでなく、患者さんなど多くの人に支えられて成立している」と実感しました」と代表の茂地智子さん(九州大医学部

医療コミュニケーション

## 薫陶塾

九州・山口SP研究会  
中国・四国SP研究会  
東海・北陸SP研究会  
関東・東北SP研究会

特定非営利活動法人(NPO法人) 医療コミュニケーション薫陶塾  
代表 黒岩 かをる  
〒810-0024 福岡市中央区桜坂 1-11-29 TEL・FAX 092-741-1805  
E-mail:kuntoh@kuntoh-juku.net http://www.kuntoh-juku.net